Press Release

2022 年 3 月 15 日

コベストロジャパン株式会社

このプレスリリースは 3 月 1 日にドイツ・コベストロ社が発表したものを日本語に翻訳したもので、報道関係者各位へ参考資料として提供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語を優先します。原文は www.covestro.com をご参照ください。

「We will be fully circular」というビジョン実現への意欲的なマイルストーン

コベストロは温室効果ガス排出実質ゼロを目指す

- **意欲的な目標： 2035 年までにスコープ 1 およびスコープ 2 のネット・ゼロ・エミッション*[1]実現**
- **2030 年までに温室効果ガス排出量 60%削減**
- **現在販売している全主要製品で、将来的に温室効果ガス排出実質ゼロ製品を提供**

コベストロは「We will be fully circular」という企業ビジョンとの実現に注力しています。この目的のために、素材メーカーである当社は、生産と製品の全範囲にとどまらず、長期的にはすべての領域を完全にサーキュラーエコノミーのコンセプトに合致させたいと考えています。この道筋の具体的な施策のひとつが、温室効果ガス排出実質ゼロ（クライメート・ニュートラル）です。コベストロはすでに 2021 年に、温室効果ガス排出量（製品生産量 1 トン当たり）を 2005 年比で 54%削減し、2025 年に設定した従来の持続可能性目標を前倒しで達成しました。

コベストロは現在、さらなる意欲的な目標を定めています。2035 年までに、スコープ 1 およびスコープ 2 について、温室効果ガス排出実質ゼロを達成することを目標としています。この目標達成に向け、2030 年までに自社生産（スコープ 1）と外部エネルギー源（スコープ 2）からの温室効果ガス排出量を 60%*[2]削減し、220 万トンにする計画です。さらに、バリューチェーンの上

流および下流工程からの間接的な温室効果ガス排出量（スコープ 3）もさらに削減します。当社は、2023 年までにスコープ 3 の削減目標を発表する方針です。

*1：温室効果ガスのネットゼロの達成は、人為的な温室効果ガスの排出（自社事業とエネルギー調達）と人為的な温室効果ガスの除去のバランスと定義されます。
*2：参考値：基準年 2020 年、温室効果ガス排出量 560 万トン

コベストロでは、温室効果ガス実質ゼロを達成するために、2030 年までに総額 2 億 5000 万ユーロから 6 億ユーロの投資を行い、エネルギー効率の向上により年間 5000 万ユーロから 1 億ユーロの操業費用の減少を見込んでいます。また、温室効果ガス実質ゼロの達成に向けて、コベストロは年間数億ユーロの操業費用の増加を見込んでいます。このコスト想定は、化石燃料の価格が再生可能エネルギーの価格よりも低いという過去の経験に基づいてなされています。

コベストロ CEO のマーカス・スタイレマンは、「この 2 年間、私たちは We will be fully circular というビジョン実現に向け、全速力で取り組んできました。この過程ではすでに重要なマイルストーンに到達しており、今後も意欲的な目標を掲げていきます。このアプローチにより、私たちはこの業界のパイオニアであり続け、多くの成功を収めてきました。次のマイルストーンは、私たちの大胆な気候目標です。サーキュラーエコノミーでは、気候、自然、資源を保護し、地球の限界を尊重した持続可能な成長を達成することができます。コベストロと化学産業は、その解決策の一翼を担っています。持続可能性は単独で実現できるものではなく、パリ協定（気候変動）の目標を達成するためには、すべての人がより大きな努力をする必要があります。政策立案者、企業、社会は、より高い水準の気候目標を達成するために協力しなければなりません」と述べています。

当社ではすでに、これまでの温室効果ガス排出量削減目標に基づき、大きなマイルストーンが達成されています。グループは、製品 1 トン当たりの温室効果ガス排出量を 2025 年までに 50%削減するという目標を、予想よりも早く達成しました。コベストロは、すべての主要生産拠点で業務改善プロセスを実施することで、2021 年時点で基準年の 2005 年と比較して、すでに 54%削減を実現しています。

2035 年の新たな削減目標の重要な側面は、パリ協定の目標を達成することです。この協定では、世界の地球温暖化を産業革命以前に比べてプラス 1.5℃に抑えることを目標としています。

気候目標の達成のための 3 つの重大要素

- 生産工程をさらに改善し、エネルギー効率を高めることで、より持続可能なものづくりを実現します。そのひとつが、亜酸化窒素の排出量削減です。これは、革新的な触媒技術の利用拡大により可能となります。また、設備のさらなるデジタル化やデジタル技術の活用により、生産工場をより効率的に制御し、デジタルシミュレーションにより工程を最適化します。デジタル技術は、バリューチェーン全体を通した排出量データの収集とトレースにも役立っています。

- コベストロの世界中の生産拠点は、徐々に再生可能エネルギーによる電力に切り替えていく予定です。例えば、エネルギー供給会社であるオーステッド社との供給契約により、2025 年以降、ドイツの生産拠点で必要とされる電力の 10%を洋上風力発電でまかなう予定です。陸上風力発電も利用します。例えば、ENGIE との電力購入契約では、ベルギーのアントワープの生産拠点で必要な電力の 45%を賄うことになっています。中国・上海における当社の電力需要の約 10%は、すでに大唐呉中新能源有限公司の太陽光発電パークから供給されています。電力供給会社との既存の協力モデルに加え、二酸化炭素排出量ゼロを達成するために、さらなる協力合意が計画されています。

- スチームは、化学品の生産工程で重要なエネルギー源です。スチームのソースを化石エネルギー源から再生可能エネルギー源に転換することは、コベストロがさまざまなルートで解決しようと考えている課題です。このため、再生可能なスチームを発生させるエネルギー源として、バイオガスやグリーン天然ガスの利用を検討しています。また、グリーン水素やグリーンアンモニア、グリーン電力もスチーム生成のためのエネルギー源として利用できる可能性があります。

コベストロは、2022 年度を皮切りに、既存の経営指標のアップデートを実施しています。2022 年度には、直接および間接の温室効果ガス排出量（スコープ 1 および 2）で測定するサステナビリティの要素を経営管理指標に追加する予定です。スコープ 1 における温室効果ガス排出量の削減は、2021 年 1 月以降、経営トップの長期報酬の構成要素として用いられる重要業績評価指標となっています。

コベストロは全製品を温室効果ガス排出実質ゼロで提供

コベストロのチーフ・サステナビリティ・オフィサーであるリネット・チュンは、「私たちは、長期的にすべての生産プロセスと製品を完全に循環型に移行することを目指しており、同時

にお客さまの気候変動に関する目標の達成をサポートするつもりです。サーキュラーエコノミーと気候変動への取り組みは、当社にとって表裏一体のものです。当社の温室効果ガス実質ゼロ製品によって、お客さまは、私たちが両方のニーズを同時に満たすことを期待できます。当社は、お客さまがサステナビリティに関し容易に意思決定できることを目指しています」と述べています。

顧客中心主義を重視するコベストロは、すでに温室効果ガス実質ゼロ製品のポートフォリオを継続的に拡大しています。マクロ経済の基本的な課題には、主要な市場において持続可能でユニークなソリューションを実現することにより対応しています。持続可能なソリューションに対する需要は、世界的な傾向により、さらに高まっています。例えば都市化により、エネルギー効率の高い新しい建物の建設や古い建築物の改修に注目が集まっています。MDI（ジフェニルメタンジイソシアネート）は、建築物や冷蔵庫の断熱材として非常に有効な硬質ポリウレタン（PU）フォームの原料として、世界中で大量に使用されています。今回コベストロは、温室効果ガス実質ゼロの MDI を製品ポートフォリオに加えました。PU 断熱材を使用することで、4,000 万トン相当の CO2 を削減することができます。新しいタイプの MDI は、マスバランス方式による ISCC PLUS 認証がとれた有機廃棄物や残渣物から生成した前駆体を使用することにより、cradle-to-gate（原料調達から製品出荷まで）で温室効果ガス実質ゼロとなっています。

持続可能な製品のもう一つの画期的な例は、コベストロの世界初の温室効果ガス実質ゼロのポリカーボネート樹脂で、マスバランス方式の有機廃棄物や残渣物、および再生可能エネルギーの原料を使用して製造されています。エレクトロモビリティのトレンドが高まり、各国制度が電気自動車（EV）を推進する中、充電システムも継続的に成長する必要があります。電気自動車の充電器に温室効果ガス実質ゼロポリカーボネート樹脂を使用することで、2030 年までに CO2 換算で最大 450 キロトンの削減が可能になると言われています。この温室効果ガス実質ゼロのポリカーボネート樹脂は、2021 年からお客さまに出荷しています。

コベストロ社について

コベストロ社は、世界最大級の高機能性ポリマー材料の製造企業です。革新的な製品、プロセス、技術により、多くの分野でサステナビリティと QOL 向上に貢献しています。当社はモビリティ、建築、生活、電気・電子分野などの主要産業において、世界中の顧客に製品を供給しています。また、当社の生産するポリマーは、スポーツ・レジャー、化粧品、ヘルスケアなどの分野や、化学産業でも使用されています。

当社は「We will be fully circular」をビジョンに掲げ、2035 年までの温室効果ガス排出実質ゼロ達成（スコープ 1,2）を目指しています。2021 年度の売上高は約 159 億ユーロです。2021 年末時点で、世界各地に 50 の生産拠点があり、約 17,900 人（フルタイム換算）の従業員が在籍しています。

www.covestro.jp, Twitter: https://twitter.com/covestro

【この件に関するお問い合わせ先】

コベストロジャパン株式会社

〒105-0011 東京都港区芝公園 1-7-6 KDX 浜松町プレイス 3F

広報部 大槻　Tel:03-6403-9112 / Fax:03-3436-1540

将来予想に関する記述 （Forward-Looking Statements）

このニュースリリースには、コベストロ社による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 （Forward-Looking Statements） が含まれています。さまざまな既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因にはコベストロのウェブサイト（www.covestro.com）に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。コベストロは、これらの将来予想に関する記述を更新すること、または将来の出来事または情勢に適合させる責任を負うものではありません。